




伊佐 雅子 (ISA, Masako)

沖縄キリスト教学院大学 人文学部英語コミュニケーション学科 教授

沖縄キリスト教学院大学大学院 異文化コミュニケーション学研究科 教授

【プロフィール】

取得学位、 大学・機関、取得年	<p>学士号(英語)、北九州市立北九州大学外国語学部米英学科、1975年</p> <p>M.A. (Communication), Michigan State University, 1981年</p> <p>Ph.D. (Communication), University of Oklahoma, 1996年</p>	
専門分野	異文化コミュニケーション、国際コミュニケーション、コミュニケーション哲学	
研究分野	異文化適応と再適応、異文化コミュニケーション教育、医療コミュニケーション、沖縄文化研究(沖縄の時間認識、模合、アメラジアンの文化的アイデンティティなど)、シンガポールの言語政策、高齢者ケア	
研究職歴等	<p>沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科 教授 2004- 学科長 2007-2010</p> <p>放送大学大学院客員教授(論文指導)2005-2009</p> <p>沖縄キリスト教学院大学大学院異文化コミュニケーション学研究科 教授 2008- 大学院研究科長 2010-2011</p> <p>沖縄国際大学大学院地域文化研究科、「多文化間教育特論」(非常勤講師)、2013 ～現在まで</p>	
担当科目	(人文学部) コミュニケーション入門、異文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ、 異文化交渉演習、比較文化、卒業研究(演習)Ⅰ・Ⅱ フレッシュマン・セミナー1	
	(大学院) 異文化コミュニケーション学特論Ⅰ・Ⅱ、 異文化コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱ、調査研究法特論(オムニバス)	

【研究活動業績】

研究業績 (著書)	<ol style="list-style-type: none"> 『女性の帰国適応問題の研究』(単著) 多賀出版、2000年。 “Adopting the Caucasian “Look”: Reorganizing the Minority Face”(Eric Kramer と共著)(E.M. Kramer, Ed.) 『Emerging Monoculture: Assimilation and the “Model Minority”』 Greenwood Publishing Group, U.S. 2003年, pp. 41-74.
--------------	---



教員 プロフィール・研究活動業績

沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教学院大学大学院

	<p>3. 「女性と異文化適応—日本人母親の場合」(第8章) 『(改訂新版)多文化社会と異文化コミュニケーション』(共著) 三修社、2007年, pp.162-186.</p> <p>4. 「模合にみる沖縄人(ウチナンチュー)のコミュニケーション」(第3章) 『人・言葉・社会・文化とコミュニケーション』北樹出版 2008年, pp.31-46.</p>
研究業績 (主要論文)	<p>1. "Phenomenological Analysis of the Reentry Experiences of the Wives of Japanese Corporate Sojourners" <i>Women and Language</i>, George Mason University, Vol.23, 2, Fall 2000, U.S., pp.26-40.</p> <p>2. "Semiotics of the Other and Physical Beauty", <i>Journal of Humanities and Social Sciences</i>, Vol.4, Okinawa University, 2003, pp.31-48.</p> <p>3. "Intercultural Communication and Cultural Learning: The Experience of Japanese Visiting Students in the U.S." (Ling Chen と共著) <i>Howard Journal of Communications</i>, June, 2003, U.S, pp.75-96.</p> <p>4. 「現象学・解釈学的アプローチからの異文化適応研究について」沖縄キリスト教学院大学論集、創刊号、2005年, pp.5-20.</p> <p>5. 「沖縄の時間意識と文化の時間性について」沖縄キリスト教学院大学論集、第2号、2006年, pp.1-18.</p> <p>6. 「学部専門科目としての異文化コミュニケーション教育」日本コミュニケーション研究者会議プロシーディングス, No.20, 2010年, pp.21-52.</p> <p>7. 「沖縄人(ウチナンチュー)の時間認識についての一考察」2011年度立教大学英語教育研究所研究成果報告書、第4号、2012年3月, pp.15-26, 立教大学英語教育研究所.</p> <p>8. 「患者の視点からみた医療不信とコミュニケーション」(宮城恵子と共著)九州コミュニケーション研究、Vo.10, 2012年, pp.14-36. 日本コミュニケーション学会九州支部.</p> <p>9. 「海外駐在員の妻の異文化受容と帰国文化適応—アメリカ滞在の場合—」情報コミュニケーション学学際研究、第2号、2013年3月, pp. 86-106, 明治大学大学院情報コミュニケーション学研究科.</p> <p>10. (その他) 用語分担執筆「国際交流」「適応曲線」「恥の文化と罪の文化」 「姉妹都市提携」「若者文化と高齢者文化」『異文化コミュニケーション事典』 (編集代表:石井敏、久米昭元) 春風社、2013年</p> <p>11. 「日本コミュニケーション学会九州支部 20周年記念誌」(2014) (56頁) (九州支部長&編集委員長)</p>
研究業績 (賞)	<p>1. 日本コミュニケーション学会「特別賞」2002年(『女性の帰国適応問題の研究』多賀出版)</p>
社会活動等	<p>財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団留学生選考委員会試験委員 2008年～2012年</p> <p>医療法人仁愛会における倫理に関する委員会外部委員 2009年～現在まで</p> <p>国際行動学会「コミュニケーション部会」長&理事 2009年～現在まで</p> <p>日本コミュニケーション学会(CAJ) 論文査読委員 2010年～2014年</p>



教員 プロフィール・研究活動業績

沖縄キリスト教学院大学 沖縄キリスト教学院大学大学院

	日本コミュニケーション学会(CAJ) 九州支部長 2011年～2015年 異文化コミュニケーション学会 SIETAR JAPAN 紀要編集長 2012年～2013年 多文化関係学会 論文査読委員 2015
所属学会	日本コミュニケーション学会(1996年～現在まで) 異文化間教育学会(1996年～現在まで) 国際行動学会 (2001年～現在まで) 異文化コミュニケーション学会 SIETAR JAPAN (2008年～現在まで) 多文化間関係学会(2009年～現在まで) 沖縄高齢者ケア研究会会員 (2014年～現在まで)

一言	<p>[モットー]</p> <p>人間は、努力を続けるかぎり、つまずくものだ(Man will err as long as he shall strive.)。これは、ドイツ人のゲーテの言葉です。外国語の学習だけではなく、すべての学びにおいて、つまずくことは大事です。つまずき、失敗するのは見苦しいものですが、だからこそ、人は努力し、前に進むことができます。失敗を恐れなくてください。</p>
----	---